

大立山まつり

昨年集計「5万は過大」

来場者数半減で批判噴出

県が冬の目玉イベントとして企画し、先月（奈良市）で開催され

た「奈良大立山まつり」について、県は「1日、来場者数が計2万6363人との集計を明らかにした。昨年同時期の初開催時は同じ5日間で計5万1000人と発表しており、半減した形だ。荒井正吾知事は集計方法の変更や天候の影響を理由に挙げ、県議からは「昨年の数字が過大だった」との批判が出ている。



大立山まつりは、LED（発光ダイオード）で内側から照らした四天王像を山車に乗せ、大極殿前の広場を巡り、ご当地グルメのブースなども出店。昨年は約2億円、今年も約1億3600万円の県費が投入されている。

県によると、昨年は広場の南側3カ所で行き交う人を数え、さらに広場に入らない来場者を目視で確認して加えて人数を発表した。しかし、5万人余りという結果が過大だと、予算を巡る県議会の審議などで「疑義がある」と指摘された。

県は「（広場に）出入りする人が重複した可能性がある」（荒井知事）として、今年も範囲を広げて平城宮跡の周囲6カ所を計測したところ数字が激減した。ただ、荒井知事は、集計方法の変更だけでなく、「今年は日曜が雨だったことが大きい」として天候の影響も強調。「さらに南側の朝堂院跡で大立山の巡行をやるということも考えられる」と述べ、来年以降の継続開催に意欲を示した。

まつりを現地視察したという川田裕典県議は「今年も人出が多い若草山の山焼きと日程を重ね、開催時間帯も長かったのに半減した」と指摘。「昨年の集計は多すぎたということ。巨額の予算をかけており、経済効果を検証すべきだ」と訴えた。

今年の「大立山まつり」の初日、大極殿前を巡る4基の山車―奈良市で

【芝村侑美】